

課題名	地域連携による飼料確保	振興局名	県北振興局
活動対象	肉用牛繁殖農家・酪農家・ 養豚農家	実施期間	平成28年4月 ～平成29年3月
<p>【対象の概要】</p> <p>肉用牛繁殖経営は929戸、飼養頭数は8,172頭（H28.4.1現在）で、16地区の各和牛部会により活動している。 酪農経営は20戸で、経産牛844頭が飼養されている。</p> <p>【課題設定の背景】</p> <p>肉用牛繁殖経営における子牛1頭あたりの生産費に占める飼料費の割合は4割に達する。そのうち購入飼料の占める割合は7割であり、飼料費高騰による経費増加が課題となっている。 酪農経営においては1頭あたりの乳量向上により生産性の向上を図ってきたが、国際的トウモロコシ取引価格の上昇により、生産費の4分の1を占める飼料費が高騰しており経営状況が圧迫されている。 また養豚経営においては、より付加価値の高い豚肉生産のため飼料米利用に興味を示す法人が存在している。</p> <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 候補地マップ活用による活用による繁殖農家の放牧地確保支援とICTを利用し母牛を放牧地から動かさない飼養形態の確立。</li> <li>2 高収量をめざした飼料専用品種の最適な作付け時期の確立。</li> <li>3 WCS利用希望農家（酪農）と作付け希望農家とのマッチング支援による自給粗飼料作付面積の拡大</li> <li>4 再生協との連携による飼料米の利用希望農家（養豚）と作付け希望農家のマッチング支援及び給与手法の検討。</li> </ol> <p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国庫事業（3組合：10農家）および県単事業（2農家）を活用し、放牧面積拡大意向農家に対し、事業計画作成、牧柵資材購入および設置、放牧牛導入等の支援を行った。また、低利用、未利用の共同牧野の利用状況を調査し、利用率向上に向けた事業化について、業者を交えた現地検討を行った。 スマート放牧場の管理運営についての検討会を毎月開催し、課題の整理や改善策の検討等を行った。</li> <li>2 飼料イネWCSについて、加工用玉ねぎ後作、茎葉型品種の早期栽培、元肥一発肥料の展示圃を設置し、生育調査、収量調査、現地検討会を開催した。</li> <li>3 酪農家について、家保と連携し定期的な巡回指導を行い、牛群検定を活用した飼養管理指導を実施するとともに、あぐりひめ（女性農業者グループ）を対象に牛群検定表の見方について勉強会を行った。</li> <li>4 松浦市の養豚法人について、課題となっている臭気対策としての畜産クラスター事業での堆肥舎整備計画を、関係機関を交えて検討を行なった。</li> <li>5 管内で粗飼料を流通している畜産農家において、県単事業計画作成への支援を行うとともに、今後の粗飼料流通量の増加を視野に、エコファーマー取得申請等への支援を行った。</li> </ol>			

## 【普及活動の成果】

- 1 事業を活用し11.6haの放牧場が整備され、新たに46頭の放牧が開始された。また、利用率が低い共同牧野について、和牛部会が積極的に活用したいとの方針を示し、利用上の課題となっている牧柵補改修を事業を活用して実施することとなった。スマート放牧については、5月から放牧を開始し、ICT機器等が正常に作動することを確認できた。
- 2 加工用玉ねぎ後作のWCSについては、平均的な収量を得られた。また、茎葉型品種の早期栽培では、早植えて出穂時期が早まる「たちあやか」の栽培が適していることがわかった。元肥一発新肥料について、慣行の肥料体系と同等の収量を得られることが確認できた。
- 3 研修会の開催等で牛群検定表の見方について理解が得られ、家保と連携して飼養管理指導により、検定成績が改善された。
- 4 臭気の一因となっている豚舎の改修について、市単独事業による実施を検討することとなった。
- 5 飼料流通量の拡大を支援する中で、エコファーマーの取得や農地中間管理機構を活用検討など事業拡大に向けた前向き動きが出てきた。



たまねぎ後作飼料稲現地検討

## 【対象の声】

- 計画書作成や事務手続きなど、引き続き協力をお願いする。経営に有益となるような情報提供についてもお願いしたい。
- 牛群検定表を活用することで、多くの情報が得られることが分かった。まだ分からないことが多いので引き続き支援をお願いする。

## 【今後の課題】

- 1 共同牧野等利用率向上が見込める放牧場の調査や再整備等検討への支援を実施する。スマート放牧については、管理運営にや草地の造成について、引き続き定例検討会の開催により支援を行う。
- 2 展示圃の設置により茎葉型2品種2の県北地域での栽培特性を把握できたため、栽培管理暦に反映させ、作付けを推進する。
- 3 牛群検定研修会や家保と連携して定期的な巡回指導により、検定成績の飼養管理改善への活用を図ることができつつあり、今後も牛群検定農家を中心に支援を行う。
- 4 市単事業を活用した豚舎改修を検討しており、臭気対策への支援を継続して実施する。一方、他の養豚農家が施設等の整備を検討しており、ベンチマーキングの推進とあわせて、この養豚農家への支援を計画する。
- 5 飼料作付面積拡大に向けた支援（エコファーマー、中間管理事業）を継続する。

## 【成果の活用及び普及活動上の留意点】

発表・参考資料